

宍粟市都市計画マスタープラン 人口流出抑制の第2のダム機能について

1. 人口流出抑制のための取り組み

本市が直面している人口減少、少子高齢化、過疎化を長期的な視点で考えた場合、市民の生活圏内から日常生活に必要な機能（小売店舗、金融機関、医療機関など）が失われる可能性があります。市民の身近な生活圏内から必要な機能が失われ、日常生活が不便になることは、若年者をはじめとする人口流出を一層加速させると考えられます。

本市では、これに対応するため、「人口流出抑制の3層のダム機能」により人口流出の抑制を図っていきます。

2. ダム機能の役割と範囲、ダム機能を含む地域のあり方

	第1のダム機能 (生活圏の拠点)	第2のダム機能 (宍粟市の拠点)	第3のダム機能
役割	市内北部の人口流出の抑制	市外への人口流出の抑制（第1のダムで抑制できない人口流出に対し、市外への流出抑制を図るもの）	播磨圏域連携中枢都市圏からの人口流出の抑制
範囲	一宮、波賀、千種の中心部	山崎都市計画区域で市街地が形成されているエリア	播磨圏域連携中枢都市圏などに含まれる市町
各ダム機能を有する地域のあり方	小売店舗、金融機関、医療機関、公共施設などの市民生活に必要な施設・機能が集積するとともに、集落や他の生活圏、宍粟市の拠点と公共交通により結ばれており、安心して住み続けることができる地域が形成されている。	「生活圏の拠点」にはない大型店舗、総合病院など全市的で高度な都市機能を持つ施設が立地するとともに、住みたい、働きたいと思われるような利便性が高く魅力的な市街地が形成されている。 生活圏や市外等とは、利便性の高い公共交通により結ばれている。	

3. 第2のダム機能として機能するために必要な都市計画分野の取組方向

第2のダム機能としての役割を担うことになる穴栗市の拠点では、人口減少や高齢化が進む中、生活に必要な都市機能や交通環境、働く場などが整い、住みたい、住み続けたいと思われるまちの実現をめざしていくことが必要です。

都市計画分野においては、既存の都市機能や都市基盤を有効活用しつつ、持続的にその役割を発揮し続けられるよう、都市機能等の維持・充実を図っていくことを基本として、以下の取組方向が求められます。

都市機能、土地利用

・行政、商業、医療、福祉、文化芸術など、市民の生活に不可欠な全市的で高度な都市機能の維持・充実

・市民の雇用を生むとともに、地域経済の活性化につながる産業・業務地づくり

・地域医療の拠点としての総合病院及び関連施設や病院へのアクセス整備

・用途地域制度などの都市計画制度を活用した無秩序な市街地拡大の抑制

交通環境、社会基盤

・全ての穴栗市民が都市機能を容易に利用でき、都市拠点内の移動や生活拠点からのアクセスにおいても利便性の良い公共交通による交通環境づくり

・安全で快適な生活や都市活動を支える道路や公園、上下水道等の社会基盤の維持、整備

住環境、市街地環境

・徒歩で移動できる範囲に都市機能が集積する利便性と回遊性が高く、活力ある中心市街地の形成

・地区の特性に対応しつつ、若い世代を中心に多様なライフスタイルに対応した住みたい、住み続けたいと思われるような安全で魅力ある住環境づくり

・穴栗市の魅力向上に向けた、歴史的文化的資源や周辺の環境と調和した良好な市街地景観の形成